

## 1 研究主題

多久市の研究

自ら生活を創造していく力を育む教育の推進  
～ 児童生徒・家庭・地域が誇れる義務教育学校としての教育実践を通して ～



令和8年度 中央校研究主題

主体的に学びに向かう児童生徒の育成 「3年次」  
～ 9か年の学びの連続性と系統性を意識した指導を通して ～

キーワード 主体性 基礎的・基本的な力 学びの連続性と系統性

## 2 主題設定の理由

### (1) 教育の今日的課題から

知識基盤社会やグローバル化が進展した今の社会を生きる児童生徒には、自ら課題を見つけ解決する力やコミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力(クリティカル・シンキング)、そして様々な情報を取捨選択し、活用する力などが求められている。Society5.0時代が到来する中、進化した人工知能が様々な判断を行い、身近な物の働きがインターネット経由で最適化し、社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。

このような中で、学校においては児童生徒が社会の変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を主体的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を育成することが必要になってくる。このため、学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」という理念のもと、「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の視点から学校教育活動の改善が求められている。

### (2) 前年度までの研究から

本校の校内研究においては、一昨年度から研究主題を「主体的に学びに向かう児童生徒の育成～9か年の学びの連続性と系統性を意識した指導を通して～」と設定し、実践的研究に取り組んできた。昨年度の研究を通して、第1に問題を解決する時に「見通し」をもち、どうすれば解決できるか考えようとする児童生徒が多くいた。活動の流れをホワイトボード等に示したり ICT 機器活用したりすることで成果があった。第2に「分からない問題があった時に、分かるように・できるようになりたいと思いますか。」という問いに肯定的に回答した児童生徒は約93%であり、児童生徒の意識としては高い水準を維持することができた。第3に、縦のつながりを意識して各教科等部会で1～2本の実践にしたことで、児童生徒の主体性を引き出すために有効性が高いと考えられる手立てがたくさん出た。一方、課題としては、第1に、児童生徒の興味関心の差があり、粘り強く学びに向かうことができない児童生徒が一定数いた。第2に、授業の「振り返り」過程において、次の学習へ生かそうとしていない児童生徒が一定数いて、児童生徒の意識と教師の意識自分の言葉で書いたり、話したりする姿があまり見られなかったことである。

### (3) 義務教育学校の特色から

本校は、平成 29 年 4 月に中央小学校、中央中学校を「義務教育学校」である「東原庫舎中央校」として開校した。本校は、9 年間を以下のような 3 つの段階に分けている。

| 一貫教育システム（4・3・2 制） | 主体的な学びに向けて | 児童生徒の姿   |
|-------------------|------------|----------|
| 1 年生～4 年生(低学年)    | 基礎期        | 学びの習慣化   |
| 5 年生～7 年生(中学年)    | 充実期        | 学びの定着・発展 |
| 8 年生、9 年生(高学年)    | 発展期        | 自己学習力の形成 |

このようなシステムを取り入れることで 9 年間を見通した、連続性と系統性をもたせた指導体制を確立し、系統的で継続的な一貫した学習指導ができるようにしている。

以上のような教育の今日的課題や前年度の研究の課題、義務教育学校の特色を踏まえ、昨年度に引き続き、学びの連続性や系統性を重視した指導を充実させることで、主体的に学びに向かう児童生徒を育成できるのではないかと考えた。そこで本研究では、研究主題を「主体的に学びに向かう児童生徒の育成～9 か年の学びの連続性と系統性を意識した指導を通して～」と設定し、実践的研究に取り組むこととする。また、昨年度の研究を通して児童生徒の「基礎的・基本的な力」が改めて課題として挙げられたことから、今年度も研究の 3 つのキーワードを変えずに継続することにした。なお、今年度の研究は、3 年間計画の 3 年次として位置付ける。

#### 確認事項

1 年次（R6 年度）…1 人 1 実践を行い、主体的に学ぶための手立ての有用性の検証と課題の明確化を図る

2 年次（R7 年度）…教科等部会で低・中・高学年において、縦のつながりを意識した授業実践を行い、連続性と系統性をもたせた指導体制の確立を目指す

3 年次（R8 年度）…学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習へつなげることができる児童生徒の育成を目指す

### 3 主題の捉え方

- ・学びとは

本研究では、「学び」を各教科等で育成を目指す資質・能力及び学習内容と定義する。

- ・学びの連続性と系統性とは

本研究では、「学びの連続性」を学びが連続して切れ目なくつながっていること、「学びの系統性」を学びが一定の順を追って、または、原理によって並んでいるつながりのことと定義する。

### 4 研究の目標

各教科の取組において、主体的に学びに向かう児童生徒を育成するためにはどのような手立てが必要か指導法の在り方を探る。

### 5 研究の仮説と目指す児童生徒像

#### (1) 研究の仮説

各教科の指導において、9か年の学びの連続性と系統性を意識し、育成を目指す資質・能力に合わせて指導法を工夫することで、主体的に学びに向かう児童生徒を育成することができるであろう。

#### (2) 目指す児童生徒像

本研究では、主体的に学びに向かう児童生徒の姿(9年生でのゴールの姿)を学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習へつなげることができる児童生徒<sup>1)</sup>とする。

※上記の児童生徒像を各教科や単元、1単位時間の授業でさらに具体化していく。

### 6 研究の内容及び方法

#### (1) 研究の内容及び方法

##### ① 9か年の学びの連続性と系統性を意識した授業づくり及び実践

- ア 育成を目指す資質・能力の整理(教科等部会)

- イ 授業づくり及び実践(グループで1～2本)

※1本の授業を部会みんなで関わり(授業者だけで考えさせない)、前後期それぞれの視点からアイデアを出すことで、よりよい主体的な学びにつなげてほしいと考える。

(学びの連続性と系統性を意識し、育成を目指す資質・能力や学習内容に合わせて指導法を工夫する。)

##### ② 基礎的・基本的な力を育成するための取組(学習部と連携)

- ア 朝学習

- イ 「家庭学習のすすめ」の発行等

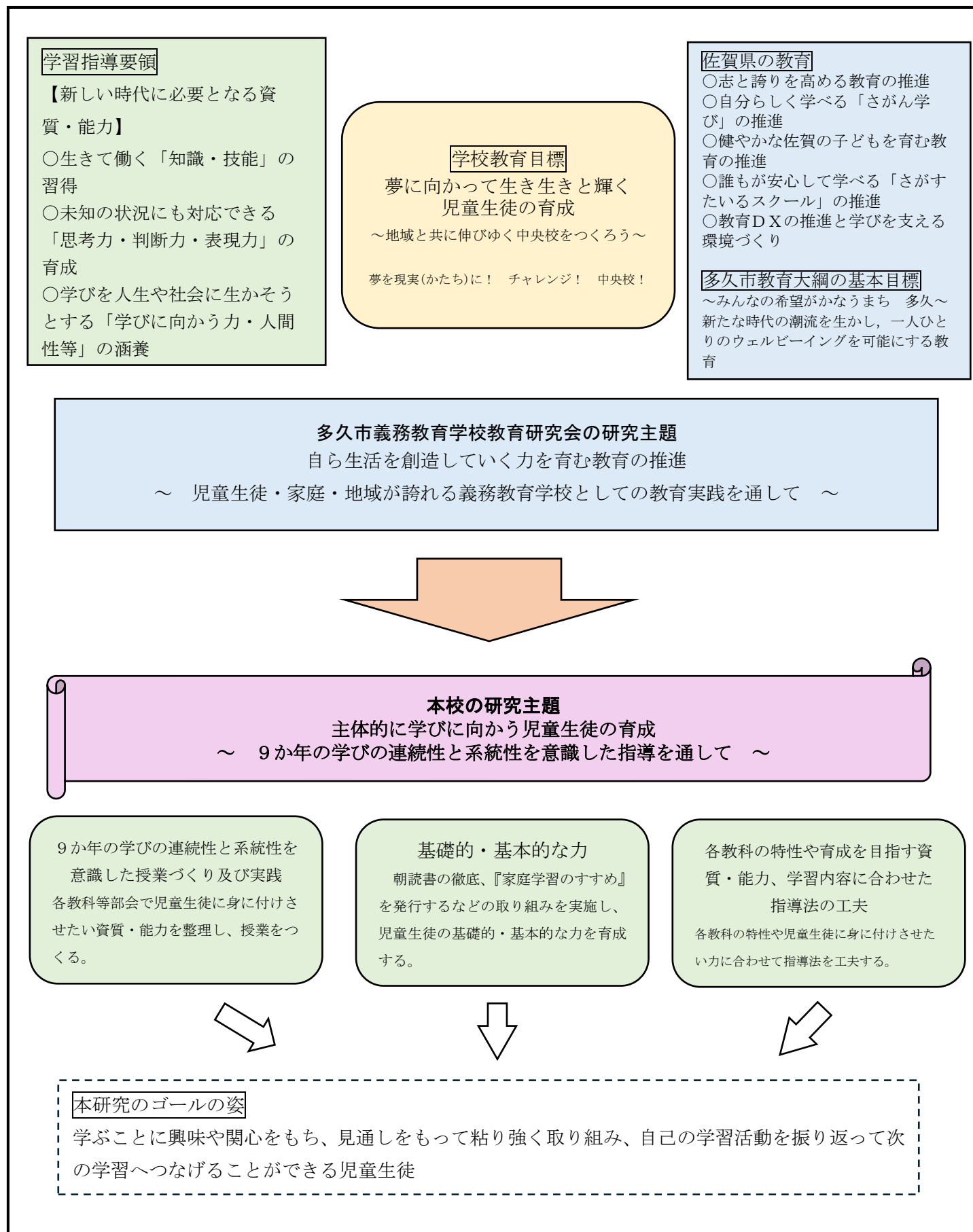
- ウ 学習スタイル(協働的な学び)の確立

##### ③ 研究成果の検証

- ア 教師、児童生徒アンケートの実施、集計、分析(全体)

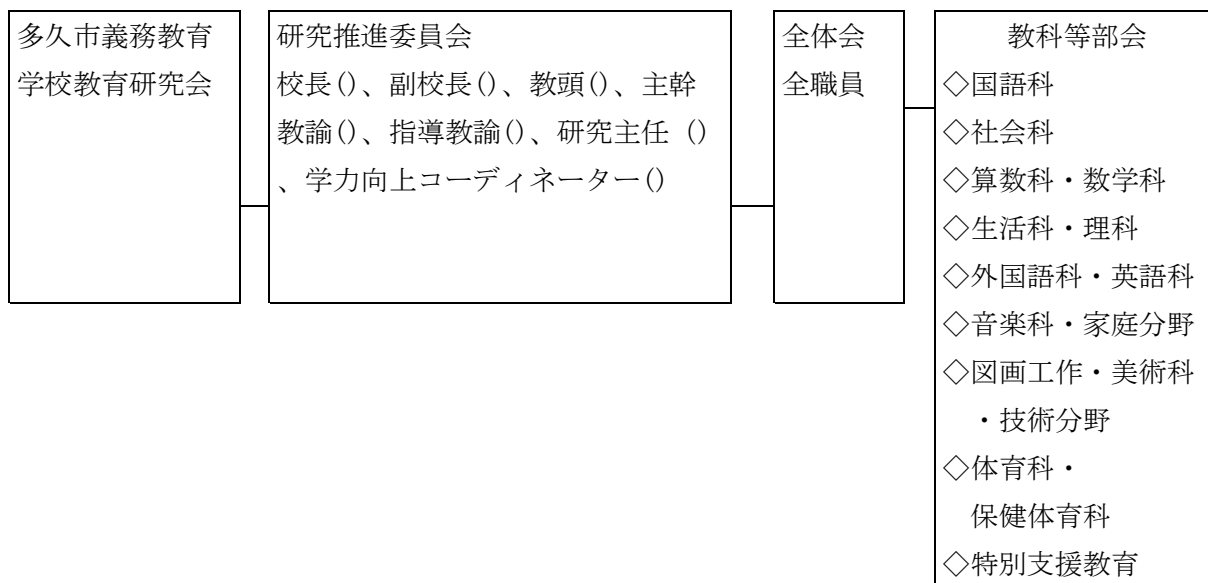
- イ 学びに向かう児童生徒の姿の変容の分析(各教科等部会)

## (2) 研究のイメージ図



## 7 研究組織

### (1) 組織図



### (2) 教科等部会の部員

| 国語科      | 社会科                            | 算数科・数学科   | 生活科・理科 |
|----------|--------------------------------|-----------|--------|
|          |                                |           |        |
|          |                                |           |        |
|          |                                |           |        |
|          |                                |           |        |
| 外国語科・英語科 | 音楽科・家庭分野・<br>図画工作・美術科・<br>技術分野 | 体育科・保健体育科 | 特別支援教育 |
|          |                                |           |        |
|          |                                |           |        |
|          |                                |           |        |

※校長・副校長・教頭は、全体への指導助言

※研究の部会は、教科等部会のみとし、学習の基盤に係る内容(教室環境の整備等)については、6部会の学習部が担うこととする。

※◎は教科等部会の部長、○は教科等部会の副部長

※基礎学力向上部は令和8年度より校内研から削除

(3) 組織の活動内容

| 研 究 部 会               |                                | 主 な 活 動 内 容                                                                       | 担 当 者                                               |
|-----------------------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 研究推進委員会               |                                | ○研究の全体計画の立案<br>・研究構想の作成<br>・研究のまとめの作成の計画<br>・指導案形式の検討・作成<br>・講師招聘計画<br>・理論的研究     | 校長 副校長 教頭<br>主幹教諭 指導教諭<br>教務主任 研究主任<br>学力向上コーディネーター |
| 全 体 会                 |                                | ○研究の計画の決定<br>・研究内容の検討、決定<br>・全体授業研究会<br>○手立ての有効性の検証                               | 全職員                                                 |
| 教<br>科<br>等<br>部<br>会 | 国語科                            | ○グループ授業研究会<br>(研究主題を具現化した単位時間を提案する)<br>・指導案作成<br>・模擬授業<br>・グループ授業研究会<br>・研究会（授業後） | 全職員<br><br>上記の各部会の部員参照                              |
|                       | 社会科                            |                                                                                   |                                                     |
|                       | 算数科・数学科                        |                                                                                   |                                                     |
|                       | 生活科・理科                         |                                                                                   |                                                     |
|                       | 外国語科・英語科                       |                                                                                   |                                                     |
|                       | 音楽科・家庭分野・<br>図画工作・美術科・<br>技術分野 |                                                                                   |                                                     |
|                       | 体育科・保健体育科                      |                                                                                   |                                                     |
|                       | 特別支援教育                         |                                                                                   |                                                     |

## 8 研究の計画

| 回  | 期 日       | 内 容                                                                                                      |
|----|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 4月24日(金)  | 【研究推進委員会A】<br>校内研Aに向けての検討、確認                                                                             |
| 2  | 5月13日(水)  | 【校内研A】<br>研究の概要および指導案形式の説明<br>各教科等部会（部長・副部長の決定、目指す児童生徒像の確認修正）<br>学力向上対策評価シートの説明（担当：学力向上コーディネーター）         |
| 3  | 5月中       | 1回目の校内研アンケートの実施(教職員、児童生徒対象)                                                                              |
| 4  | 6月19日(金)  | 【研究推進委員会B】<br>校内研Bに向けての検討、確認                                                                             |
| 5  | 6月24日(水)  | 【校内研B】<br>アンケートの実施、グループ研の進め方の確認<br>各教科等部会ですべきこと<br>①昨年度の成果と課題の確認、今年度の取り組みの確認<br>②児童生徒像の作成 ③領域の決定 ④授業者の決定 |
| 6  | 7月～11月    | グループ研の実施。11月までに終わらせ、12月にはまとめ作業。                                                                          |
| 7  | 8月19日(水)  | 【研究推進委員会C】<br>校内研Cに向けての検討、確認                                                                             |
| 8  | 8月26日(水)  | 【校内研C】<br>アンケート結果の確認、グループ研後のまとめ方の確認<br>各教科等部会（授業者の授業日時・単元の確認、指導案の検討）                                     |
| 9  | 10月28日(水) | 【研究推進委員会D】<br>校内研Dに向けての検討、確認                                                                             |
| 10 | 11月 4日(水) | 【校内研D】<br>各教科等部会（授業の進捗状況の確認、指導案作成、まとめなど）                                                                 |
| 11 | 12月11日(金) | 【研究推進委員会E】<br>今後の見通し、校内研Eに向けての検討、確認                                                                      |
| 12 | 12月16日(水) | 【校内研E】<br>各教科等部会（成果と課題のまとめ作業）、今後の予定の確認                                                                   |
| 13 | 1月中       | 2回目の校内研アンケートの実施(教職員、児童生徒対象)                                                                              |
| 14 | 2月 5日(金)  | 【研究推進委員会F】<br>研究紀要の確認修正<br>今後の見通し、校内研Fに向けての検討、確認                                                         |
| 15 | 2月17日(水)  | 【校内研F】<br>今年度の研究の報告、次年度に向けて（主題やテーマの確認）                                                                   |
| 16 | 2月末       | 義務教育学校研究会 研究紀要の提出                                                                                        |
| 17 | 3月19日(金)  | 【研究推進委員会G】※研推で方針を決め、詳細の報告は次年度に。<br>成果と課題、アンケートの結果を踏まえた次年度の方向性の検討                                         |

《引用・参考文献》

- 1) 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』 2021 年 12 月
- 2) 文部科学省 『小学校学習指導要領 総則』 2018 年 東洋館出版
- 3) 佐賀県教育委員会 「佐賀県教育施策実施計画」 2025 年 p 3, 4  
[https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki\\_ji00398305/3\\_98305\\_290760\\_up\\_wpejmm3k.pdf](https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji00398305/3_98305_290760_up_wpejmm3k.pdf)
- 4) 多久市 『第 3 次 多久市教育大綱』 2023 年 p 2  
[https://www.city.taku.lg.jp/uploaded/life/24907\\_732967\\_misc.pdf](https://www.city.taku.lg.jp/uploaded/life/24907_732967_misc.pdf)
- 5) 中央審議会答申 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～』 2021 年 1 月
- 6) 佐賀県教育センター 『平成 29 年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた 学習評価の進め方』  
[https://www.sagaed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/r2/01\\_syo\\_chu\\_kakukyouka/02\\_syo\\_sansu/syo\\_sansu.pdf](https://www.sagaed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/r2/01_syo_chu_kakukyouka/02_syo_sansu/syo_sansu.pdf)
- 7) 那須 正裕 『個別最適な学びと協働的な学び』 2021 年 東洋館出版

## 令和8年度 校内研究指導案形式(グループ研用)

### 指導案の作成にあたっての統一事項

#### 【1】 書く内容

○ ～～科部会の取組 (部会で話し合って決定します。)

1 単元名(題材名)(主題名) 全○時間

教科によって(図画工作科、音楽科、美術科、技術・家庭科、特別支援)は「題材名」とします。

2 単元の目標

3 本時の学習 ○/□

(1)本時の目標 (2)本授業で目指す主体的に学びに向かう児童(生徒)の姿 (3)展開

4 本時の成果及び課題

(1)成果

(2)課題

#### 【2】 その他 フォント等の注意事項

- ・ A4 2枚程度におさめる。
- ・ 余白 上下左右 20 mm ・行間 特に指定はしない
- ・ 題 「本時の学習」「本時の目標」などは→MS ゴシック
- ・ 題以外の文字→MS 明朝体
- ・ フォント 10.5 を基本とする※ただし、予想される児童生徒の発言等を書く場合は、文字を小さくしてよい。
- ・ 句点は「、」に統一する。
- ・ 評価規準 A 評価、B 評価を記入し、B 評価に達していない児童生徒への指導・支援を記入する。
- ・ 参観者の視点(見る観点)を設け、研究協議等で議論が深まるようにするために  
「4 本時の学習 (2) 本授業で目指す主体的に学びに向かう児童(生徒)の姿」の項目を設ける。
- ・ 「4 本時の学習 (2) 本授業で目指す主体的に学びに向かう児童(生徒)の姿」の書き方の例  
本校の研究における主体的に学ぶ児童生徒の姿を教科の特性や学習内容に応じて  
さらに具現化(具体化)したものを連続性と系統性をもたせた指導体制が分かるように書く。

#### 本校の研究における主体的に学びに向かう児童生徒の姿

「学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習へつなげることができる児童生徒の育成」

視点が以下の4つありますが、1単位時間の授業で4つ全てを目指すのは難しい場合もあるので2つほど(できれば③と何か)をピックアップしていただければと思います。

①興味や関心 ②見通し ③粘り強く取り組む(学習スタイル) ④振り返り

例1: 入場料金の問題から答えの見通しをもち、既習事項や数直線図を活用し、演算を決定し、協働的な学びを通して粘り強く問題を解決しようとする姿を目指す。(算数科)

例2: 奈良の大仏の動画から興味や関心をもち、グループ学習を通して仏教の力で国を治めていたことに気づき、キーワードを使って奈良時代の学習を振り返る姿を目指す。(社会科)

例3: 自分が取り組みたい技の形態図や動画を参考にし、技のポイントを意識し、小集団で試行錯誤しながらマット運動を楽しむ姿を目指す。(体育科)

・「5 本時の成果及び課題」については、「主体的に学びに向かう姿」という視点から成果及び課題を書く。参観者の感想や意見、児童生徒の様子をまとめる。

# 1 〇〇〇科部会の取組 ※「1」は部会で作成する

主体的に学びに向かう児童生徒を育成するにあたり、〇〇〇科部会で児童生徒の学びの実態を「主体性」をキーワードとして話し合った。良い所として、以下の〇点が挙げられた。第1に、～こと。第2に、～こと。第3に、～ことである。一方、課題として以下の3点が挙げられた。第1に、～こと。第2に、～こと。第3に、～ことである。

以上のような実態や学習指導要領、中央教育審議会の答申を踏まえ、本部会では主体的に学びに向かう児童生徒像を以下のように設定し、今年度は、「〇〇〇」に焦点を当て、研究を進めることとした。

| 低学年(1～4年)                                        | 中学年(5～7年) | 高学年(8・9年) |
|--------------------------------------------------|-----------|-----------|
| ～姿                                               | ～姿        | ～姿        |
| <div>※授業を実施する学年の所を太線で囲んでください。例は、中学年(5～7年生)</div> |           |           |

以上のような主体的に学びに向かう児童生徒を育成するために以下の手立てを考えた。考えられる手立ての一部を示す。

●

●

・

・

・

・

・

・

・

・

※部会で考えた手立てをピックアップして挙げてください。

●は本単元（本授業）で特に意識して取り組む手立てです。

本単元『〇〇〇』では、～の〇つの手立てを特に意識し、単元及び本時の授業を組み立てた。

# 第〇学年 〇〇〇科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 ( )  
場 所 〇年〇組教室 (〇〇室)  
授業者 〇〇 〇〇

## 2 単元名 『〇〇〇〇』 全〇時間

## 3 単元の目標

単元（題材）の目標を明確に設定します。文末は、「～できる。」「～理解する。」「～しようとする。」のように、児童生徒を主体として記述する場合が多いです。

## 4 本時の学習 〇／□

### （１）本時の目標

～することができる。（知識・技能 / 思考力・判断力・表現力 ）

### （２）本授業で目指す主体的に学びに向かう児童（生徒）の姿

本校の校内研究のテーマを踏まえ、本授業で児童生徒のどのような学びの姿を目指すのか、主体的に向かっている姿は、どのような姿なのかを記載します。

### （３）展開

| 過程   | 学習活動・予想される児童（生徒）の様子 | ○教師の指導上の留意点、評価                                                                                 |
|------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つかむ  | 1                   | ○                                                                                              |
| 見通す  | 2                   | ○                                                                                              |
| 考える  | 3                   | <p>評価について記載した部分は、二重線で囲む。</p> <p>評価項目を記載する<br/>A…<br/>B…<br/>●（B に達していない状況に対しての教師の手立てを記載する）</p> |
| 学び合う | 4                   | ○                                                                                              |
| 振り返る | 5                   | <p>ここの部分の書き方は、教科等で自由に変更していただいて構いません。<br/>ただし、教科等での統一をお願いします。</p>                               |

## 5 本時の成果及び課題

### (1) 成果

- ①
- ②
- ③

「主体的に学びに向かう姿」という視点から成果及び課題を書く。授業時の生徒の写真や資料、事後研での意見を含めて A4 1 枚程度に収める。

※令和 7 年度の研究紀要を参考にしてください。

L3>315>02 校内研究>2025>令和 7 年 研究紀要

### (2) 課題

- ①
- ②
- ③

## 6 成果と課題

※今年度は校内研 3 年次が終了するため、本時とは別に各教科等の成果、今後の展望を書きます。

授業から見てきたことはもちろん、部会の先生方が日々の授業の中で得られた成果など。

### (1) 成果

- ① ～～な（振り返り）活動を行うことで、児童（生徒）が次の学習を見通すことができた。
- ② タブレットを用いることで、主体的に～～な活動に参加し、学習意欲が高まった。
- ③ ～～な取り組みを継続して行ったことで、基礎的基本的な学力が身についた。
- ④ ～～な活動のメリットは効果があった反面、～～な部分でデメリットがあった。

### (2) 今後の課題

- ① ～の力をつけていく必要がある。
- ② ～～の取り組みを継続することで、～～になっていくと考える。
- ③